



生物多様性保全を志向するグリーン・アグリーインフラストラクチャー — [農] の目指すべき姿の創造 —

日時：平成 26 年 4 月 22 日（火）

場所：宇部市大字沖宇部 254 番地（湖水ホール）

主催：日本学術会議農業生産環境工学分科会

共催：宇部市、山口大学、日本農業気象学会、日本生物環境工学会、農業施設学会、生態工学会、農村工学研究所

開催趣旨

生態系が多様で、生物が多様であることで、私たちの命や暮らしが支えられており、多くの生き物たちと仲良く暮らす共生の心をはぐくむ事が大切です。生物多様性の保全と持続可能な利用に関して世界に蓄積した知識を活用することが必須となっており、グリーンインフラストラクチャーを基幹的手法とした災害に強い地域空間を実現しようとしている。持続可能な形で利用する自然性の高い空間としての農地や林地を活用し、生物多様性を保全し、社会の負担が少なく、多様な生態系サービスを提供して地域振興をすることは国土・国勢の未来可能性を保証するために不可欠である。本シンポジウムは、多元的共生を基軸とした地域振興のあるべき姿の創造に寄与するグリーン・アグリーインフラストラクチャーを目指す農業環境システムイノベーションの哲学的基軸、進むべき方向性および具現化すべき成果を模索するために開催する。

プログラム

10:00 **開会挨拶** 大政謙次（日本学術会議第二部会員、農学委員会農業生産環境工学分科会委員長
東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

10:05 **趣旨説明** 早川誠而（日本学術会議第二部連携会員、山口大学名誉教授）

基調講演

10:15~11:15 **生物多様性保全とグリーンインフラストラクチャー**

鷺谷いづみ（日本学術会議第二部会員、統合生物学委員会委員長、統合生物学委員会・環境学委員会合同自然環境保全再生分科会委員長、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

一般講演

11:15~11:45 **地球環境の保全と修復における微生物・植物・人類の協働**

丸本卓哉（山口大学長）

11:45~12:15 **「農」の目指すべき姿の創造—地域環境資源の活用による持続可能な高収益農業—**

北野雅治（日本学術会議第二部連携会員、九州大学大学院農学研究院教授）

12:15~13:30

休憩

13:30~14:00 **グリーン・アグリーインフラストラクチャーとして見た温室**

奥島里美（日本学術会議第二部連携会員、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構農村工学研究所上級研究員）

14:00~14:30 **森林における分解者シロアリを利用した生物多様性評価方法**

~熱帯大規模人工林におけるシロアリ多様性調査を例に~

竹松葉子（山口大学農学部教授）

14:30~15:00 **多様性保全を目指した水生生物生息環境評価法**

関根雅彦（山口大学大学院理工学研究科教授）

15:00~15:30 **農業・環境分野におけるリモートセンシングと空間情報解析**

大政謙次（東京大学大学院農学生命科学研究科教授）

15:30~16:00 **ツル飛来地周南市八代地区の農業用水路における水生動物の生態系保全**

寺本明広（きらら浜自然観察公園レンジャー）、深田三夫（山口大学農学部教授）

16:00~16:30 **宇部市における生物多様性保全の取組**

浮田正夫（山口大学名誉教授）

16:30~16:40 **今後の展望** 橋本 康（日本学術会議連携会員）

16:40 **閉会挨拶** 真木太一（日本学術会議第二部会連携会員、農学委員会農業生産環境工学分科会副委員長、九州大学名誉教授）

参加費無料

問合せ先 早川誠而 〒755-0025 山口県宇部市野中三丁目 4 番 29 号

緑と花と彫刻の 博物館 Tel. 0836-37-2888 Fax0836-37-2889 E-mail: hayakawa@yamaguchi-u.ac.jp

